



天草市観光振興計画（R8～11年度）に関する策定方針について

1. 観光振興の意義

- 観光振興の意義は、多岐にわたるが第一に、観光振興を通じて交流人口を増大させることは、幅広い産業における消費につながることから、人口減少下において地域経済の規模を維持・拡大するために重要であることが考えられる。
[参考] 観光庁の試算によると、外国人旅行者8人分、国内宿泊旅行者23人分、国内日帰り旅行者75人分は、それぞれ定住人口一人当たりの年間消費額に相当。
- また、次の3つの観点についても、観光振興の意義として考えられる。
 - ①交流人口は関係人口や定住人口の予備群としても期待されることから、人口減少下において地域活力の規模を維持・拡大すること
 - ②観光を通じた地域資源の活用は、それが自然や文化の保全に配慮して適切に行われる場合には、これら地域資源の持続可能性を高められること
 - ③観光を通じた地域資源の活用にあたっては、その価値に関し住民の理解を促進することが重要であるが、このことは地域に対する「誇り」、「愛着」の醸成にもつながること
- 次期の観光振興計画は、本市における観光振興がこれらの意義をより果たすために必要な取り組みを具体的に定めるために策定する。

2. 計画策定にあたっての基本方針

<基本方針1>コンセプトの明確化	<基本方針2>誘客戦略の具体化	<基本方針3>部局間連携による取組強化
・本市における今後の観光振興の方向性として、「持続可能な観光地域づくり」の推進に重点的に取り組むことを明確化。また、このことをシティプロモーション（ブランディング）の一環としても位置付ける。 ・日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に沿った計画を策定し、JSTS-Dに基づき取組みを推進する。また、庁内ワーキンググループや新たに民間中心に組織されるコンソーシアムを活用し、関係部局及び官民の連携による取り組みとして推進する。 ・次期の計画名称は、『(仮称)天草市持続可能な観光地域づくりアクションプラン』とする。	・台湾（現地及び訪日熊本在住者）・長崎・福岡を主なターゲットエリアとして、観光消費額向上のために滞在時間の最大化につなげる情報発信について、マーケティング手法を用い集中的に展開する。 ・具体的には、イルカ、国立公園、下田温泉、世界遺産を結ぶ天草西岸軸の周遊・宿泊を意識しながら、台湾からの誘客は福岡空港経由の空路、長崎からの誘客は航路を想定して拡大を図るため、ターゲットごとにニーズにマッチした観光資源と二次交通を組み合わせた情報発信を集中的に展開する。 ・誘客に向けた情報発信をより効果的なものとするため、人流データ等の収集・分析、マーケティングに関する取組みを強化する。	・持続可能な観光地域づくりの推進（基本方針1）及び、台湾（現地及び訪日熊本在住者）・長崎・福岡からの誘客強化（基本方針2）を踏まえ、これらの方針に沿った部局間の取組みを推進する。

〔補足〕これまでの取組みと具体的な計画策定の必要性
本市では、観光振興課に限らず関係部局において、天草イルカ調査研究室や崎津集落における文化的景観の保全等、地域資源の活用による観光とそれらの持続可能性を両立させる各種施策に取り組んでいるところである。また、2026年（令和8年）には、自然資源の活用と保全の意義を再確認するために大きな契機となる「雲仙天草国立公園」指定70周年を控えており、住民、観光客、民間事業者と地域資源の価値を共有するための施策等を今後予定している。
「持続可能な観光地域づくり」は、世界的な潮流であり、本市も既に取り組んできたが、国内外からさらに選ばれる天草を目指すためには、国際基準に沿った統一的な方針の下に関係部局の施策を糾合し、取組みの一層の強化を図る必要がある。
そこで、関係部局の各種施策に関して、「持続可能な観光地域づくり」に資する施策として、改めてそれぞれを体系的に整理し到達度を評価したうえで、取組強化を図るためにも、具体的な計画を策定することが重要である。なお、「持続可能な観光地域づくり」の推進にあたっては、「サステナブルツーリズム」という用語の取扱いについて、住民の理解促進を図るための工夫が必要であることに留意する。



天草市観光振興計画（R8～11年度）に関する策定方針について

3. 成果目標 ※具体的な内容は、現時点の達成度合を踏まえ今後検討

★数値目標 ⇒ 『**観光消費額**』・・・熊本県の総合戦略を参考に評価指標を設定
※観光消費額の算定方法（宿泊客消費額単価×宿泊客数）＋（日帰り客消費額単価×日帰り客数）

〔参考〕 現行計画における数値目標は、宿泊客の観光消費額、観光拠点施設等への来訪者数、宿泊客数

★その他 ⇒ **JSTS-Dの定める観光指標の達成度を一定割合向上させること**
（実現可能性があれば、国際認証の取得を目標として掲げることも検討）

〔参考〕 北海道弟子屈町は、JSTS-Dに沿ったアクションプランに取り組んだ結果、目標としていた国際認証「GREEN DESTINATIONS TOP100（Stories 2023）」への選出を達成

4. 今後の進め方

- 令和7年度は、本方針に則り、庁内ワーキンググループや新たに民間中心に組織されるコンソーシアムを活用して、『(仮称)天草市持続可能な観光地域づくりアクションプラン』の策定に取り組む。
- 策定にあたっては、データの収集・分析、マーケティングのほか下記の点について、民間事業者の知見を活用する。

関係する基本方針	内 容
<基本方針1>コンセプトの明確化	・ 計画に沿った現行施策の整理、各観光指標の達成度の評価等 ・ 各観光指標の達成度向上に向けた個別具体的な取組内容の検討等 ・ 計画策定にあたっての関係する会議体の運営支援等 ・ 観光にかかわる事業者や住民の理解促進を図る方策の企画立案等
<基本方針2>誘客戦略の具体化	・ マーケティング（観光ニーズを探るための調査・分析）による具体的なターゲットの抽出や、当該ターゲットに対するアプローチ方法を含む戦略構築等